

# 横浜合唱協会 第61回定期演奏会



2012年2月18日(土)  
横浜みなとみらいホール 大ホール  
主催：横浜合唱協会

# 横浜合唱協会 第61回定期演奏会

## シュツツとバッハ

### — ドイツバロック音楽2人の巨匠 —

#### H. シュツツ

「宗教合唱曲集 (*Geistliche Chormusik*)」より

*Herr, auf dich traue ich (SWV377)*

主よ、御もとに身を寄せます

*Die mit Tränen säen (SWV378)*

涙と共に種をまく人は

*So fahr ich hin zu Jesu Christ (SWV379)*

私はイエス・キリストの御もとに行く

*Die Himmel erzählen die Ehre Gottes (SWV386)*

諸々の天は神の栄光を語り

G. Gabrieli *Ricercar (IXth Tone)*

G. ガブリエリ リチェルカーレ 第9旋法 〈オルガン演奏〉

#### H. シュツツ

「ダヴィデの詩篇曲集 (*Psalmen Davids*)」より

*Wohl dem, der den Herren fürchtet (SWV30)*

主を畏れるものは幸いである

*Wie lieblich sind deine Wohnungen (SWV29)*

あなたの住いは何と美しいでしょう

G. Gabrieli *Canzon I a 4*

G. ガブリエリ 4声のカンツォーン 第1番 〈オルガン演奏〉

#### H. シュツツ

「ダヴィデの詩篇曲集 (*Psalmen Davids*)」より

*Jauchzet dem Herren, alle Welt (SWV36)*

全地よ、主にむかって喜ばしき声をあげよ

### — 休憩 —

J.S. Bach *Christ ist erstanden (BWV627)*

J.S. バッハ キリストは甦り 〈パイプオルガン演奏〉

#### J. S. バッハ

*Motette Jesu, meine Freude (BWV227)*

モテット イエスよ、わたしの喜び

指 揮: 八尋 和美

オ ル ガ ン: 山口 綾規

チ ェ ロ: 伊藤 恵以子

コントラバス: 河原田 潤

合 唱: 横浜合唱協会

## ごあいさつ

本日は横浜合唱協会第61回定期演奏会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

今回は、前回に引き続いてのアカベラコンサートとして、ドイツバロック音楽の2人の巨匠であるH.シュッツとJ.S.バッハの教会音楽をモテットとオルガン演奏でたどってみることに致しました。アカベラ演奏だけで作曲者の意図する音楽を作り上げるのは至難の業ではありますが、団員一人一人の曲目追索・理解と歌唱表現努力を結集すれば合唱団として息の合った素晴らしい演奏ができるものと信じて練習を重ねてまいりました。

17世紀から18世紀に架けてのドイツバロック音楽の世界を少しでも感じ取って頂ければ幸いです。

次回は来年2月に八尋和美先生の指揮者就任40周年記念演奏会としてブラームス「ドイツレクイエム」を演奏致します。引き続き皆様方のご支援をお願い申し上げます。

2012年2月18日

横浜合唱協会 代表 堂崎 浩

## プロフィール

### 八尋 和美 (やひろ かずみ / 指揮)

東京芸術大学声楽科卒業。声楽を矢田部勤吉、指揮法を渡辺暁雄の諸氏に師事。芸大卒業と同時に東京混声合唱団の創立に参加。以来、東京混声合唱団のコンサートマスターとして、同団のトレーニング、編曲、指揮者として活躍。1973年、東京混声合唱団指揮者に就任。同団との全国的な演奏活動の他、アマチュア合唱団の指導、合唱指導者の育成にも優れた手腕を発揮している。1982年、文化庁芸術家在外研修員として旧東ドイツを中心に研鑽を積む。1997年、東京混声合唱団正指揮者に就任。現在、くらしき作陽大学客員教授。横浜合唱協会は1973年より指導。

### 山口 綾規 (やまぐち りょうき / オルガン)

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。東京芸術大学音楽学部別科オルガン専修を経て、同大学院院修士課程音楽研究科(オルガン)を修了。これまでにパイプオルガンを田中由美子、ブライアン・アシュレー、廣野嗣雄の各氏に師事。東京を中心に、アメリカ、中国、マレーシアなど国内外で積極的に演奏活動を続けている。クラシックからジャズ、ポピュラーまで、ジャンルの垣根を超えた多彩なレパートリーには定評があり、例年開催しているリサイタル「オルガン・エンターテインメント」では、自身の持ち味を存分に発揮している。作編曲や後進の指導、執筆など、活動のフィールドは広い。昨年はここクイーンズスクエア横浜のクリスマスイルミネーション「シンキングツリー」の音楽制作を担当。日本オルガニスト協会会員。全日本ピアノ指導者協会(PTNAピティナ)正会員。昭和音楽大学非常勤講師。

### 伊藤 恵以子 (いとう えいこ / チェロ)

東京芸術大学附属音楽高校を経て同大学、同大学院博士課程修了。チェロを三木敬之、R・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。日本音楽コンクール入選。1982年から2年間バリエコールノルマルで学ぶ。芸大在学中バッハカンタータクラブに所属し、小林道夫氏の指導の下で数多くの宗教曲に触れる。現在、ピアノ四重奏Ensemble Delice、ハーブトリオなどの室内楽、モダンとバロック楽器での合唱の伴奏やアンサンブル等、様々な演奏活動を行っている。訳書に「ポール・トルトゥリエ チェリストの自画像」「メニューインとの対話」がある。

### 河原田 潤 (かわらだ じゅん / コントラバス)

福島市出身。県立福島高等学校卒業。福島大学教育学部小学校教員養成課程卒業。その後音楽の道を志し、武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(コントラバス専攻)修了。コントラバスを村上満志、ツォルト・ティバイ、佐々木等、檜山薫の各氏に師事。室内楽を金谷昌治、故清水勝雄、ロバート・バート、故ウルリヒ・コッホの各氏に師事。

コントラバス奏者として室内楽、国内の主要なプロオーケストラに出演、また国内外の著名なバレエ団(Kバレエカンパニー、松山、ポリショイ、キーロフ、シュツットガルト、ローラン＝プティ等)、オペラ(故ルチアーノ・パヴァロッティ・ファイナルワールドツアー日本公演、アグネス・バルツァ・リサイタル日本公演等)のオーケストラで首席奏者として活動。その実績により、レニングラード国立歌劇場管弦楽団の日本公演の際、客演として参加した。

東京バッハ・カンタータ・アンサンブル、アンサンブル・エスプレッソ、ヴェリタス室内オーケストラメンバー。現在常葉学園短期大学保育科(音楽科兼任)准教授。

## 曲目解説

### ◆ルター、シュッツ、バッハ

ルター (1483-1546)、シュッツ (1585-1672)、バッハ (1685-1750) の3人の巨匠は、15-17世紀にかけて100年の間隔でドイツに誕生しました。ルターはラテン語からの重訳ではなく、新約聖書はギリシア語、旧約聖書はヘブライ語の原典から、信仰による使命感に溢れ、文学的にも優れ、大衆にも分かりやすいドイツ語聖書を刊行しました。シュッツはこのルター聖書の言葉を非常に鋭い洞察力で解釈し、ルターが常に“今、この瞬間”に原典聖書の言葉を再び蘇らせたことを音楽で実現しました。そしてバッハはこのシュッツのルター聖書の言葉の音楽化の伝統の上に、カンタータ、モテット、ミサ、受難曲等に見る豊かな宗教音楽の世界を築きました。

本日は主としてルター聖書の言葉をシュッツとバッハが見事に音楽化した詩篇、モテット等を演奏いたします。

### ◆ハインリヒ・シュッツの宗教音楽形成

シュッツは1598年 (13歳)、モーリッツ辺境伯・宮廷礼拝堂聖歌隊に入り、同時に古典語学校で数学、言語、神学に関して望みうる最高の教育を受けました。若きシュッツは傑出したラテン語及びギリシア語の能力を習得し、聖書の言葉に作曲する際に必要とされる、深く確かな解釈力を身につけます。1609年 (23歳)、才能が認められモーリッツ伯から奨学金を受けて、ヴェネツィアに4年間留学し、聖マルコ大聖堂オルガニストG.ガブリエリに師事し、ヴェネツィア楽派の壮大華麗な複合唱や朗唱様式を学びました。1617年 (32歳) ドレスデン宮廷礼拝堂楽長に就任し、1619年若さ溢れる創作力で留学成果を結実させたのが、本日演奏する「ダヴィデの詩篇曲集」です。

さらに1628年、再度ヴェネツィアに2年間ほど留学し、1613年以来、聖マルコ大聖堂楽長に就任していたモンテヴェルディのモノディー法、協奏法、劇的表現法等の斬新な手法の影響を大きく受けました。その成果を織り込んで創られたのが、本日演奏するア・カベラの傑作「宗教合唱曲集 (1648年出版)」です。

### ◆シュッツ「宗教合唱曲集」1648年出版

全29曲からなるモテット曲集で、歌詞は主としてルター訳のドイツ語聖書から選ばれ、5声が12曲、6声が11曲、7声や器楽の付いたものが6曲で構成されていて、上記グループごとに待降節から始まる教会暦の順に並べられています。これらはドイツ30年戦争の厳しい中、ドレスデン宮廷礼拝堂で長年営々と続けられてきた礼拝式での演奏曲から作曲者自ら選りすぐった珠玉の曲ばかりです。伝統的な対位法、教会旋法、定量記譜法に則りながら、ルター精神から生まれた新たな息吹が籠められた芸術作品です。聖書テキストを (A、B、C) の3つに区切った3部形式で曲付けされています。

- ・主よ、御もとに身を寄せます (神への信頼) SWV377 5声 (SSATB) 詩篇31 暦の指定なし ヒポイオニア旋法  
苦悩・疎外を嘆く祈りから、神の救いを強く祈願し、固い砦としての神に信頼を寄せる。  
(A導入部) “私をはずかしめないで (nimmermehr zu Schanden)” と苦悩の嘆きが語り調の2声並行によって強調。  
(B展開部) “私を救い出して (errette mich)” からホモフォニーに転換し、ポリフォニーに戻ると臨時記号# (十字架) がつけられた助けて (hilf) の叫びが、何度も繰り返されクライマックスに達する。  
(C結び部) “固い砦 (starker Hort)” が付点音符で力強く歌われ、砦へ“逃れる (fliehen)” 姿が音型にて描写。
- ・涙と共に種をまく人は (死と復活) SWV378 5声 (SSATB) 詩篇126 三位一体の最終 ドリア旋法  
古代エジプト、ウガリットの神話では、「種」に肥沃の神の死を、そして「収穫」にその神の再生を見てきた。キーワードとなる「種、種まき、涙」と「刈り取り、束、喜び」が対比されて曲付けされている。  
(A導入部) 種まきと悲しみ (2拍子)、収穫と喜び (3拍子) が対比、涙 (Tränen)、喜び (Freuden) を繰り返し強調。  
(B展開部) 泣く (weinen) を繰り返し徹底的に強調し、復活において起こる転換に耐えているよう。  
(C結び部) 喜び (Freuden)、穀物 (Garben) を繰り返し、「繁栄が回復する」ことを描いて結ばれる。
- ・私はイエス・キリストの御もとに行く (復活祈願) SWV379 5声 (SSATB) コラル歌詞 葬儀 イオニア旋法  
鎮魂と復活を祈る葬儀の曲で、結びで怒涛のように繰り返される“永遠の生命”のモチーフが印象的。  
(A導入部) “イエスの御もとに” が、「上行」と「下降」音型で並んで歌われ音程が離れて別れを表現。  
(B展開部) 眠る (ruhe) の長い不協和音の死の世界、起こす (aufwecken) の救済が全体符をはさんで対比。  
(C結び部) イエスによる“永遠の生命 (ewigen Leben)” のモチーフが大胆な変奏を交えて繰り返される。
- ・諸々の天は神の栄光を語り (神の創造) SWV386 6声 (SSATTB) 詩篇19 新年礼拝 ヒポドリア旋法  
神の創造した宇宙を語る詩篇は創世記と関連を持ち、ハイドン「天地創造」第1部終曲でも用いられている。  
(A導入部) “天は神の栄光を語り” がソプラノからポリフォニーで開始され、ホモフォニーに転換して納まる。  
(B展開部) 長いテキストを持ち3つに細分される。1は神の音が響く“全地に (in alle Lande)” が、2は擬人化された太陽が走る (laufen) が変奏され描写、3ではAの“天は神の栄光を”のホモフォニー部を再演。  
(C結び部) “初めにあったように” の栄誦が、Aの“天は神の栄光を”のホモフォニー音楽に嵌め込まれ終結。

### ◆「ダヴィデの詩篇曲集」1612-15年に作曲、1619年出版

全26曲からなる詩篇曲集で、20曲 (うち12曲は栄誦つき) が詩篇全行を音楽化、3曲が詩篇章句を音楽化、2曲が預言者の書、1曲がコラルに作曲されています。演奏形態については、表題に「好みにより」と記されているように、演奏者に大きな自由が与えられています。序文では「ドイツではほとんど知られていないが、最良と思われる朗唱様式で作曲した。詩篇は言葉数が多く同じ言葉を何度も繰り返さず『朗唱する』のがよい。」と記されています。

- ・主を畏れるものは幸いである (祝福) SWV30 8声 (SSAT/ATBB) 詩篇128 ドリア旋法  
「神の祝福は人生を満ち満ちたものにし、恵まれ繁栄を見る」ことが歌われる。

## 曲目解説(つづき)

(A導入部) “ブドウの木のような妻”、“オリーブのような子供”の弾んだ旋律で、家族の繁栄を描写。  
 (B展開部) 見よ (Siehe) から長く引き伸ばされた音符が増え、イスラエルの平和 (Friede) を祈願。  
 (C結び部) “父と子と聖霊”の栄誦が、とこしえに (Ewigkeit) を何度も繰り返して締めくくられる。

・あなたの住いは何と麗いでしょう (称賛) SWV29 8声 (SSAT/TTBB) 詩篇84 ヒポドリヤ魔法  
 神に向かって進む生き生きた信仰を、寓意と比喩を多用して、2つの合唱、少年合唱(SSAT)と大人の合唱(TTBB)の響きを対比させながら喜び褒め称えている。

(A導入部) 「神の国に近づく」喜びがモノディックに語られた後、主の“大庭、鳥、燕の飛翔”の音画が登場。  
 (B展開部) “嘆きの谷 (Jammertal)”の半音階進行の苦悩を越え、“勝利につく勝利を得 (erhalten einen Sieg)”と高まり、“真の神 (der rechte Gott)”の感動的カンタービレへ、主の力でこの世の苦難を乗り越えていく。  
 (C結び部) 一節ごとに音程を上げる和音に乗せた誓願、主の家に入る“喜び (Ich will lieber)”、主への信頼と続き、“幸いである (wohl dem Menschen)”が同じ音型を高声と低声で同時に響かす組鐘効果でフィナーレ。

・全地よ、主にむかって喜ばしき声をあげよ (賛歌) SWV36 8声 (SATB/SATB) 詩篇100 クリスマス ヒポイオニア魔法  
 神のいますところである「神殿の庭」へと門を通して進み行く際の感謝の賛歌。

(A導入部) 賛歌への呼びかけ (Jauchzet) と、その理由“主こそ造り主”が、2重合唱で掛け合わされる。  
 (B展開部) 主に感謝 (Danken)、褒め称え (Loben) がメリスマで、主は恵み深く (freundlich) が長い音符で強調。  
 (C結び部) “父と子と聖霊”の栄誦がカノンで始まり、“初めにあったように”のホモフォニー2重合唱で結ばれる。

### ◆J. S. バッハ “イエスよ、わたしの喜び” BWV227 1723年から1735年の間に作曲 追悼音楽

自筆譜や直接バッハに結びつくオリジナル資料はなく、総譜の写しで伝承されています。歌詞は2つの母体、J. フランクのコラール「イエスよ、わたしの喜び (1653)」と、ローマ書・8章から交互に選ばれています。全体は11曲から成り、6曲目のフーガを中心にしてシンメトリー構造を形成して、マタイ受難曲と同じホ短調を主調としています。

1. コラール 4声 (SATB) イエスよ、わたしの喜び ホ短調 (e-moll) 4/4 J.フランクのコラール第1節  
 「素晴らしい和声、表現豊かな内声、流暢なバス」が揃った、バッハ・コラールの真骨頂。とりわけテノールの6度跳躍の牧場 (Weide) や心配である (bange) を含む表現豊かなカンタービレは絶品。
2. 合唱 5声 (SSATB) イエスに結ばれ罪に定められることなし ホ短調 (e-moll) 3/2 ローマ書・8章1節  
 ホモフォニーの“何もない (Es ist nun nichts)”は、休符によって無を表象 (Aposiopesis)。長大なフーガ・テーマの変化 (wandeln) は悪魔の減5度音程が肉 (Fleisch) に変わる罪深さを示し、且つ、真ん中でe-mollからh-mollに転調し変化を表象している。
3. コラール 5声 (SSATB) イエスの庇護の下で ホ短調 (e-moll) 4/4 J.フランクのコラール第2節  
 ソプラノの4分音符コラール旋律に対して、内声部が8分音符で朗唱され、その歌詞は嵐、攻撃、稲妻と修辭的アフェクト (心情) に富んだ劇的な緊張を生む。オスティナートバスが、2拍子モチーフでバリエーションされながら繰り返される。オスティナートは「強情」を意味し、「あらゆる敵の嵐の前でも自由」を表象。
4. 合唱 3声 (SSA) 霊の法則は ホ短調 (e-moll) 3/4 ローマ書・8章2節  
 2つのソプラノのデュエットと支えるアルトで、前半は「霊の法則」(e-moll) を、後半は「罪と死の法則」(h-moll) からの解放を歌う。結びのTodes (死) の下降音型 (Katabasis) は凶像的な表象。
5. コラール編曲 4声 (SATB) さあ、年老いた竜よ ホ短調 (e-moll) 3/4 J.フランクのコラール第3節  
 キリストは悪魔に敢然と立ち向かい、死と死の恐怖、世界の混乱、地震そしてその底知れぬ深い破壊の淵に抵抗する。一転して“我はここに立ち静けさの中で歌う”はマドリガル風で描写的。コラールはパラフレーズ (改編) されていて、第一ソプラノ (時々第二ソプラノも) において断続的に響く。
6. フーガ合唱 5声 (SSATB) 肉にある者ではなく ローマ書・8章9節ト長調 (G-dur) 4/4  
 全体中心の二重フーガ。第一テーマは霊 (geistlich) の長いメリスマと気高さをもったコロラトゥーラ。第二テーマは“他ならぬ神の霊 (so anders Gottes Geist)”のマルカート冒頭、4度の上昇、最後の下降旋律から構成。後半ではこの2つのテーマを同時に響かせるフーガの名人芸を披露。
7. コラール 4声 (SATB) すべての宝よ、去れ! ホ短調 (e-moll) 4/4 J.フランクのコラール第4節  
 下3声部は去れ (weg) という激しく追い払う朗唱風の8分音符。後半は悲惨 (Elend)、困窮 (Not)、十字架 (Kreuz)、恥辱 (Schmach)、死 (Tod) という厳しい言葉で修辭的なアフェクト (心情) が強調される。
8. 合唱 3声 (ATB) キリストがあなたがたの内にハ長調 (C-dur) 12/8 ローマ書・8章10節  
 前半の内体は罪ゆえに死んでも (C-dur) は、死 (Tod) の不協音を抱えつつ表現豊かな旋律、ゆったりしたリズム、後半一転して、霊の不滅 (d-moll) は、生き生きたコロラトゥーラによって表現される。
9. コラール編曲 4声 (SSAT) さようなら、生きざまよ イ短調 (a-moll) 2/4 J.フランクのコラール第5節  
 コラール旋律はアルト。2つのソプラノがデュエットし、テノールは通奏低音。バスのない構成は、マタイ受難曲のソプラノ・アリア“愛ゆえに救い主は死にたもう”のような無実・純潔の概念を連想させる心に沁みる惜別の曲。
10. 合唱 5声 (SSATB) 霊が内に宿り ホ短調 (e-moll) 3/2 ローマ書・8章11節  
 音楽を共有する第2曲合唱の何もない (nichts) の休符は、ここでは霊 (Geist) の息、呼吸に相当。フーガのメリスマの変化 (wandeln) は、内に宿る (wohnet) に置き換わっている。
11. コラール 4声 (SATB) 退け、悲しみの霊たちよ ホ短調 (e-moll) 4/4 J.フランクのコラール第6節  
 テノールの6度跳躍は喜びの君 (Freudenmeister) と逆境 (Betrüben) で起こり、美しい最後の上昇は信仰告白“イエスよ、わたしの喜び (Jesu, meine Freude)”をあらためて確認して全体を締めくくっている。

(藤井良昭: 会員)

# 横浜合唱協会

横浜合唱協会はJ.S.バッハ合唱作品の本格的な演奏活動を目指して、1970年に発足したアマチュア合唱団です。以来、会員自らの企画の下、古典宗教音楽を中心とした演奏活動を行い現在に至っています。J.S.バッハを中心に据えつつ、パレストリーナ、モンテヴェルディ、シュッツ、ヘンデル等からメンデルスゾーン、ブラームス、ブルックナー等のロマン派、マルタン、ベルトなど近・現代の作曲家に至る作品を幅広く取り上げています。

指導陣は、東京混声合唱団の元正指揮者である八尋和美氏を常任指揮者とし、ピアノ伴奏者に谷口明子氏、松尾地恵子、木島千夏、小林彰英、佐野正一の諸氏をヴォイストレーナーに迎え、音楽・発声の両面から指導を受けています。これまで60回を数える定期演奏会では、小林道夫、若杉弘、黒岩英臣等の諸氏を客演指揮者として迎えました。1997年と2002年のドイツ演奏旅行では、バッハ縁りのライブツィヒ聖トーマス教会礼拝式での演奏、タールビュルゲル夏の音楽祭などドイツ各地での公演を通し、大きな足跡を残しました。バッハ没後250年節目の2000年は創立30周年にもあたり、現トーマスカントールの G.C.ビラー氏をはじめライブツィヒ関係者の協力を得て記念演奏会「BACH FEST 2000 TOKIO」を開催し、大きな反響を得ました。2004年には G.C.ビラー氏の指揮のもと「マタイ受難曲(初期稿)」を演奏し好評を博しました。2008年夏には第3回ドイツ演奏旅行を実現しライブツィヒ、シュトゥットガルトなどで演奏を行いました。

## 正 会 員

### [ソプラノ]

小見山嘉子	長尾 里美	平鹿 諭子	飯島 純子	新谷 暁	須賀 由美	藤井 節子
木村 美保	魚本 充子	市川 浩子	山田 都	松田 久美	志村 知子	高田 文子
古宮真紀子	青柳 敦子	岡崎 希枝	広庭 恵美	森岡 美紀	河野 敦子	渡部 園美
中村さえ子	土田 紀子					

### [アルト]

堂崎 律子	大杉 純子	新井千鶴子	和田 京子	馬岡 洋子	西田 和子	岩附美知子
山本久美子	藤井美智子	堀内 陽子	中山 典子	新井 光恵	水越 淳子	鈴木理絵子
那須比奈子	本多 志織	保田 康子				

### [テノール]

藤井 良昭	堂崎 浩	馬岡 利吏	土井 賢一	松本恵太郎	古根 正治	清水 光洋
片岡 元彦	岡田 亮介	長谷 雅信	川越 信彰			

### [バス]

新井 隆士	飯島 龍哉	山田 直樹	松田圭一郎	若狭 保弘	梅原 俊之	高橋 誠
平鹿 一久	市川 純也	安積 和彦				

## 維 持 会 員

丹内紀久代	鹿島 和子	石橋由紀子	児玉 弓子	伊藤 邦子	気賀沢忠文	新居 康彦
竹村 重雄	万年 武	富澤 尊儀	清水 正子	天ヶ瀬圭三	梅津 実可	中山 元子
武田 サヨ	大竹 衣子	柴田 秀男	吉見 和高	田川 正浩	山岡 千秋	佐久間貴美
安広 百代	中西 牧子	入澤 三徳	藤井可奈子	中村小絵子	松下 孝	佐々木聡子
吉崎 桂江	友田 晃利	八尋 直美	鈴木 園子	三宅 雅子	柏 聡子	増村 照文
久保 祐子	村木誠一郎	山本 政之	勝山久仁子	柴田 洋子	西連寺利絵	入澤 洋子
山田多佳子	鈴木 康司	山下 誉子	小野沢 誠	飯島 幸子	魚元 一司	平井 聡子
平井 透	茂木紀美子	石川 鮎子	笹井 平	柴田 英治	大石 康夫	吉川由里子
陶山 悟嗣	中野 理子	小澤克之助	三宅 健一	国分エリ子	小見山雄次	正島 博政
雀部 征宜	雀部 邦子	鳥山 純一	津守 滋	土井美智子	森岡 剛	白石 洋子
入江 光子	日沖 憲司	谷口幸一郎				

横浜合唱協会ホームページ <http://www.ycs.gr.jp>

表紙：C.Spetnerによるシュッツの肖像画  
E.G.Haußmannによるバッハの肖像画